

令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「信州山のおもてなし」推進事業
事業主体 (連絡先)	常念口登山案内人組合 (090-3343-6445)
事業区分	(4) 安全・安心な地域づくりに関する事業 (6) 産業振興、雇用拡大に関する事業 ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	4,169,190円 (うち支援金: 3,334,000円)

事業内容

- ・組合員の案内による安全な登山、歴代組合長の功績山岳写真家・田淵行男との親交、関係者の対話、新型コロナウイルス感染拡大により様相が変わった山小屋の状況や働く組合員のインタビュー等を撮影、仕上げた
 - ・作品DVDの配布、データ配信により、「信州登山案内人組合」を全国に広め、北アルプスという唯一無二の地域資源を活かした広域観光の推進に繋げる。
- *制作した映像を用いた上映会(安曇野、松本地域)は新型コロナウイルス感染拡大により、やむなく中止した。



【令和2年10月16日】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①今年度までに制作した映像配布、配信により安曇野市明科在住の加々美氏が組合への加入を希望。更に安曇野へ移住してきた若手の風間、鈴木両組合員を取り上げたことで、移住者が多い組合員の意識向上、若年層の組合員の増加が期待できる。
- ②DVDの配布、データの配信により、コロナ禍後、登山案内人の需要が増え、北アルプス観光の推進に繋がる。

【目標・ねらい】

- ①組合員の若年層の増加・意識向上
- ②北アルプス観光の推進

※自己評価【A】

【理由】コロナ禍に於いて事業を予定通り進めることが難しい中でも、組合に加入したいという仲間を得ることができた。今後も3年間の事業で制作した映像を活用していくことの有効性を実感した。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ・今年度は、新型コロナウイルス感染拡大により山小屋など長野県の山岳関係者にとっても一大転換が迫られた。この事業により、新しいスタイルを模索し始めた山小屋の様子を捉えることができ、コロナ禍後の登山案内人の役割の重要性を改めて考えさせられた。今後、今年度できなかった映像の上映会により、更なる組合員の意識向上と北アルプス全体の組合連合会の連携を図り、若年層の組合員の増加、北アルプス観光の推進を目指す。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある